

処理を考える(28)



図・表・写真などの処理 その2

3. 本文中に入れる時はどこに入れるか

テープ図書では墨字の本と違って、とばして先を読んだり、戻って読み返したりする作業は容易ではありません。従ってそのまま聞いて行けばいいような作り方をすることが理想です。

例えば、図や表を見ながら本文を読まないで本文が理解できないような時、本文のあとで図や表を入れたのでは困ります。

又、時には二つ以上の事柄を一つの図(又は表)にしたものがあります。墨字の本を読む時には、本文の途中で何度も同じ図(表)を見直すこととなります。このような図(表)をはじめに出て来た時に全部説明して後は本文だけ読むのでは、後の方の本文は理解しにくいこともあるでしょう。このような場合には、はじめに図(表)などを入れる時に断って、一つの図(表)を何回かにわけて説明するという方法も考えられます。

ex. 「図〇〇〇の中に、A, B, C三つの図があります。ここでは図Aを説明し、図B, Cは後の本文の関係のある所でそれぞれ説明します」

入れる所を決めて、説明の文章が出来たら、必ず一度前後の文章と続けて読んで見て下さい。思いがけない矛盾を発見することもあります。本の作り方は様々です。図・表・写真などをどこに入れるか一つ一つ慎重に決めて下さい。

4. 絵、写真を説明する時

ここでは、絵（写真）を説明する時の注意点を上げてみます。例文として上げたものは、一枚の写真についての説明文です。適当なものには○、不適當なものには×印をつけてあります。

①まず、全体像を説明する。

いきなり具体的な説明をしても何についての説明がわからなければイメージしにくいものです。

○「超高層ビルが乱立している写真です」

②次に具体的な説明に入る。

○「細く高いビルが遥か後方まで幾棟も見えます。手前の道路には歳老いた女の人が一人、柄の長いほうきと塵とりを持って歩いています」

③音声訳者の主観は避ける。

×「窓の上下の間隔が美しい」

×「老婦人がたった一人だけ歩いている姿がさびしい」

④イメージしにくい抽象的な言葉は避ける。

⑤絵（写真）にある以上の説明はしない。（辞書を引用したり音声訳者の知っている情報を付け加えたりしない）

⑥あいまいな物の断定は避ける。間違った説明につながる。

×「清掃人夫が長い柄のホーキとちりとりを持って立っています」

（清掃人夫かどうかはわからない。実際は年老いた女の人が歩いている）

⑦長すぎる説明は避ける。

以上、一般的な説明を上げてみました。

写真集など絵（写真）が中心になる本は別として、一般には、絵（写真）は、本文に書かれたことを視覚にうったえて、本文のイメージをより膨らませるという役割を持っています。本文とのつながりにも注意して見たままを簡潔に説明することを心がけて下さい。イメージの混乱がないか、本文とのバランスはどうか、写真に重点が置かれ過ぎていないか確かめて下さい。

つづく

今月の練習問題

練習問題 1

* 同音異義語

かつての子どもの前に立ちはだかったカベは確然たる型として子どもの前に存在しにくくなった現代でもある。発見の努力なくしては生きがいを探しづらくなった分だけ、いまの子は一時代前の子どもたちより一層人生を生きる上で難しい位置に立たされているのかもしれない。

いま学校と家庭はこうした子どもたちに、安住的な閉鎖的モラトリアムの空間から脱出し、どのようにナマの社会の現実に触れさせるのかの課題を大きく負わされているのである。とくに学校は、従来からとかく指摘されていた「閉ざされた公的空間」を脱け出て、子どもたちに広い世界の挑戦を具現化させる。そのなかで、「しなやかな知性と心」の教育が仮想から現実への橋渡しとして重要な役割を持っていることを認識したい。

問題はそれをどう取り込んで教育課題としてシフトしていくか、抽象から具象の体験の教育への新たな回帰が学校週五日制のなかではじまっている。

K 中学校の例を見るまでもなく、身近な弱者への献身、地域社会への積極的な社会参加、そうした素朴な子どもの目を一つひとつ多角的に積み重ね、それを地域につなげていく発想の柔軟さが欲しい。それには何よりも教師の情熱とフロンティア精神がその「仕かけ」の核になっていることを忘れてはならない。

お茶の水女子大学教授の森隆夫氏によれば、教師には三つの「シドウ」が大事だという。

よく演出術のなかで「指導は始動だ」ということばがある。すべて最初が大事、エンジンを始動させるのには最大のバッテリーが消費される。綿密な仕かけの術で子どもにやる気を起こさせる。そのためには幅広い始動のレパートリーと、かくし玉が教師のふだんの研修のなかで用意されていなければならない。読書、演劇、映画、生きることの知恵やそのための仕かけ術は、専門以外のところに多くある。この吸収が何よりも大事である。

次は「指導は示導だ」ということばである。子どもが動きだしたら、^{じつぱひとからげ}十把一絡では見ない、常にその人その人によって方法を変えたり、援助、サジェスションの方法を示導してやる。そのための技術が教師に表示されているというのである。説得の技術等の、表現技術が教師に求められる。「黙って男は〇〇ビール」の教師像では、デジタル化したいまの子たちには通用しない。明るく、楽しく、豊かな表現力はブラウン管のなかだけのタレントへの好感度ではないのである。

そして、最後は「指導は志向である」組織として束ねていく力量である。人、物、金これを総合的に組織して、目標にむけて指導する総合力が問われるのである。とくに、この面での教師の決断力と前提となる思考の練りが大事である。幅広い情熱収集

の力量と処理能力、それらのプロセスを駆使して考えを練る。とくに、教師にいま「哲学」が問われるのはこのためである。

「出会ったときの君でいて」テレビドラマの題名ではないが、教師になったあの最初の情熱と希望、なによりも人間への愛に燃えた時代の先生を、子どもも親もひたすらに求め続けていることを忘れてはならない。

練習問題 2

“やさしい”こと

* 区別が必要か、混乱するかしらないか

人づき合いの潤滑油

新しい“やさしさ”を理解するためには、旧来の「やさしさ」をいったんは棚上げにしなくてはなりません。同じ言葉を用いながら二つのやさしさは、それほど異なっているのです。小遣いをもらってあげる“やさしさ”、好きでなくても結婚してあげる“やさしさ”——新しい“やさしさ”とはそのように具体的で実践可能なことです。単なる「気持」といった漠然としたものではありません。それどころか、言葉で「気持」を伝えたり伝えられたりすることは御法度^{ごほつと}でさえあるのです。とかく「気持」偏重だった古い「やさしさ」にこだわってはい理解できない。そういう新しい“やさしさ”のありさまを、第一章で示しました。

もちろん、二つのやさしさには共通点もあります。人々がお互いにやさしさを振り向けあうことで滑らかな人間関係をとりむすぼうという点は同じなのです。僕の見るところ、このようにやさしさが人づき合いの潤滑油として尊重されるようになったのは、比較的新しいことのようにです。

近代語としての優しさは、本来、人の心をなごませるような性質の一種でした。それは娘たちや花々の美德として認められはしても、「華奢^{まよしや}」の弱さに通じるマイナーな価値しか与えられていませんでした。優しさは与^{くみ}するに易^{やす}しいことでもあったのです。

やさしさが大変貌をとげたのは、一九七〇年前後のことだと僕は考えています。学園闘争の閉塞状況のもとで、当時の若者たちは、自分を他人もともに弱い傷ついた者である、と認識しました。その時「互いの傷を舐めあうようなやさしさ」が求められ始めたのです。

今となっては、このスローガンは気色悪いばかりです。しかし、当時の若者たちにとって、この言葉は彼らの新発見——やさしさが人や花の性質であるばかりか、人づき合いの方法でもありうることを雄弁に表現してくれるものだったのです。

この「やさしさ」も、当初は、当時の大人たちからは女々しいことと蔑まれました。しかし、若者たちの社会進出にともなって、メイジャーな価値となってゆきます。犬が舐めてくれると僕たちがそこに小さな傷を見つけるように、「やさしさ」を向けられると人々は誰しも自分が傷ついていたことに気づかされ、その傷を癒^いすには「やさしさ」が必要だと分かったのです。

練習問題3

* 今回の音訳講習会の問題の一部です。

問題1 アンダーラインの文章を読むとしたらどちらの切り方が適切か。適切と思う方の番号に○印を付けてください。(スラッシュは切るところです)

A カルシウムは骨を作るとか、鉄分は血になる、食物繊維は便秘に効くということはよく知られている。しかし、こうしたものは牛乳や野菜、海藻など自然の食品で十分取れる。

それなのにヘルシードリンクが飲まれているのは、バランスのいい食生活をしていないことの証明でもある。普段の食事では不足しているものを補おうというわけだ。

1. 普段の食事では不足しているものを補おうというわけだ。
2. 普段の食事では不足しているものを補おうというわけだ。

B テンバが運転席のカセットのスイッチを入れた。すると私の好きなチャンバ・ツェリンの歌声が流れ出した。テンバはチラッと横目で私を見て、あの愛敬のある笑顔を見せる。後ろの席ではタリンが、「アジャラガヤーモ……」とテープに合わせて、これとばかりに歌い出す。チャンバ・ツェリンの歌の中でこれまた、私の一番好きな歌のだけれど、歌詞の意味が解らない、前にツェワンに尋ねたら「いつか後で教えてあげるよ」と言ったのになかなか教えてくれず、もう一度尋ねたら、また「今度ね」と言ったきりだったので、私は未だにスキヤットでしかあわせられなかった。

1. もう一度尋ねたら、/また「今度ね」と言ったきりだったので、私は未だにスキヤットでしかあわせられなかった。
2. もう一度尋ねたら、/また「今度ね」と言ったきりだったので、私は未だにスキヤットでしかあわせられなかった。

C 心マッサージ

口対口人工呼吸を二回続けたあと、お年寄りの頸動脈に軽く触れて、脈があるかどうかを調べます。そこで脈がない場合は、心マッサージを行います。

以上が一次救命処置の三段階です。これらを一人で行う場合は、先ず、口対口人工呼吸を二回行い、脈の有無を調べ、なければ心マッサージを15回行い、それ以降、この二つを組み合わせた処置を2回、15回のペースで繰り返します。

1. ……2回行い、脈の有無を調べ、なければ心マッサージを15回行い、それ以降、この二つを組み合わせた処置を2回、/15回のペースで繰り返します。
2. ……2回行い、脈の有無を調べ、なければ心マッサージを15回行い、それ以降、この二つを組み合わせた処置を/2回15回のペースで繰り返します。

問題2 日本語には同音異義語がよく出てきます。必要な時に音声訳者が補足しますが、補足する場合、熟語の意味からかけはなれた説明は誤解をあたえます。以下の文章で、漢字を説明しているのもっとも相応しいと思う番号に○を付けてください。

「あるものを精確に写し取る」という時は「精確」の方の熟語を使うが、いかにもその状態を表していると感心した。

1. セイカクのセイは精神のセイ、カクは確立のカク
2. セイカクのセイは精密のセイ、カクは確実のカク

問題3 次の文章であなたが配慮するとしたらどの語句に補足をいれますか。また、あなたが補足する内容をお書きください。

彼は今の地位にいたるまでに、会社の先輩からいろいろ攻撃も受けてきた。会社の荒廃に対しても嘆いてきた彼は、ジャーナリズムの火を消すまいと奮闘してきた。

・補足する語句 ()

・あなたが補足する内容 ()

先月の例文の処理例

例文1

* アンダーラインの読み方

・・・前に立つ。最期に身につける衣裳を選ぶ自由を与えられた彼女が纏ったのは、誇りに満ちた娼婦の服だった。

切り間違いの例

・・・前に立つ。最期に／身につける衣裳を選ぶ自由を与えられた彼女が纏ったのは、誇りに満ちた娼婦の服だった。

「最後に身につける衣裳」が一つの言葉なので、

・・・前に立つ。最期に身につける衣裳を／選ぶ自由を与えられた彼女が纏ったのは、／誇りに満ちた娼婦の服だった。

例文2

* 漢字の処理

ドクダミ

ドクダミという名の由来は、「毒を矯める」<ためるは、まっあぐになああいみの【きょうせいあるの「きょう」のじ、番を矯める>あるいは「止める」というところからきたという説と、独特の臭いから毒があるのではないかということで「毒溜」<どくだめ、だめはみあだめとかはきだめのだめ>とも呼ばれたという説と毒痛みの意味で毒や痛みに効くことから名づけられたという諸説があります。また、ドクダミは、昔から民間薬として用いられ、十の薬効があることから「十薬（重薬）」<じゅうやく、かんあうじのじゅうやくあひ、または、かさなる、やくあひ>という生薬名がついています。

例文3

* 表記が問題

読み書き並行論

どちらさま
読者諸賢もくつらさまも、くしゃしよけんも>ご存じのように、交ぜ書きというのは、「骸骨」を「がい骨」<「がい」をひらがな、「つ」をかんじ>、「拉致」を、「ら致」<「ら」をひらがな「ち」をかんじ>、「改悛」を「改しゅん」<「かい」をかんじ、「しゅん」をかんじ>と書く方法のことである。

この原稿に取りかかる前、たまたま「日本農業新聞」（七月二十六日付）を眺めてい

たら、アメリカの米作事情が載っており、その大要はこうであった。アメリカの米生産高は、南部の不作もあって急激に落ちてきている。もちろん在庫量も落ち込んだ。そこで今年は減反のための転作率はゼロになるらしい。つまりアメリカの米農家も減反政策できびしいところへ追い込まれているのだが、今年度は減反しなくてもすすみそうだという記事である。そして記事の見出しが、

〈米国では転作ゼロに緩和／不作で需給ひっ迫〉〈「ひっはくのひつ」をひらがな〉

と交ぜ書きになっていた。大きな見出し活字で交ぜ書きにされるといっそう間が抜けて見える。大活字で「逼迫」となっていれば迫力があったのに惜しいことだと思いつつながら、こうやって原稿を書いているところだ。

……

〈『病気をだしに』〈「だし」はひらがな〉と書く代はりに『口実』〈かんじてこうじつ〉と書けば、口実てふ漢文風の熟語及び、だしといふわが俗語に伴ふ意義趣味が相並び、相和し、相助けて茲に一団の豊かなる意味を伝ふる。『無言』〈かんじておごん〉『饗宴』〈かんじてきょうえん〉と書けば『しじま』『うたげ』といふ古語を知らぬ者も漢字に縋つて其の意義を知り得るのみならず、『しじま+無言+だんまり』といふ様に古語と漢語と俗語の三重の意義を伝ふることになる。〉（『新文章講話』明治四十二年）

二通りの読みがあって意味が異なるもの (57)

面子	メコ 子どもの玩具 メツ 面目、体面、 (中国語)	三軒	サゲン ミキ 垂木が三重に差し出した軒
開口	カコウ ものを言い始める。 アチ(アチ) 足袋、沓などの 足を入れる口。	人面	ジンメ 人間の顔、また、それに似ている者 ヒトモ 伊勢神宮の神御衣を織る者
半額	ハカク 全額の半分 ハビタイ 冠の額に三日月型の透かしのある冠	中手	カテ 早稲と晩稲との中間期に熟する稲の品種の総称 カゲ 囲碁で相手の眼を一つにする為、地の中に意志を打ち込むこと。また、その石

利用者から製作依頼を受けている原本

書名

- 『宇宙論の危機 新しい観測事実揺れる現代宇宙論の最前線』
マイケル・D.ルモニック著 <自然科学>
- 『ケアマネジメント』竹内孝仁著<社会学>
- 『人生ニッコリ笑って生命がけ』田辺昇一著 <倫理学>
- 『競馬用語1000』Studio フェラル著 <スポーツ>
- 『日本の名馬』白井透著 <スポーツ>
- 『おなら大全』ロミ&ジャン・フェクス著 <民族学>
- 『正統の哲学 異端の思想』中川八洋著<西洋哲学> 350頁
- 『魂の幼児教育』としくらえみ著 <教育> 100頁
- 『幼児のための人形劇』ライヤ・ヤケ著 高橋弘子訳 <教育> 125頁
- 『ドリームボディ・ワーク』アルト・ミゲル著 <心理学> 253頁
- 『IDNハンドブック 成分と作用がわかる本』伊勢龍彦著 <医学>
- 『ディスカバリー世界の真相への接近』<宗教> B5判 308頁
- 『関節痛のための運動』デーバ・ソベル、アサー・C・クライン著 <医学>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

今回引き受けて頂いた
原本とグループ

『障害児保育の考え方と実践法』辻井正著 <教育>	えくてもあ
『幸福の革命』大川隆法著<宗教>	〃
『大東亜戦争ここに甦る』小室直樹著 <歴史>	〃
『変形性膝関節症の運動・生活ガイド』杉岡 洋一著	〃
『世界史B98年度用大学入試センター試験超対策問題集』	テープライブラリーにしのみや
『鏡の国のジョージ』阿部裕子著 <随筆>	〃
『ヨセフとその兄弟 III』 <宗教>	〃
『白梅 句集』青井寿子編 <詩歌>	〃
『灯 2月号』原牧志著 <句集>	〃
『森田芳光カントクと行く』森田芳光著<スポーツ>	I C C B